感動いっぱい　夢いっぱい

平成29年9月5日　No. 15

第２学期始業式　９月１日（金）

静かだった学校に，子ども達の元気いっぱいの姿がそろいました。学校に再び息吹が吹き込まれました。

さあ，２学期。勉強の秋・スポーツの秋・読書の秋・食欲の秋・・・また，２学期は多くの行事があります。日々の学習を大切にすること，めあてをもって努力することで大きく成長できる学期にしたいと思います。

わたしが，２学期にがんばりたいことは３つあります。

１つ目は，学校音楽祭です。まちがえないようにけんばんハーモニカをえんそうしたいです。

２つ目は，学芸会です。うしろまでとどくように，大きな声でどうどうとセリフを言いたいです。

３つ目は，わすれものをゼロにすることです。１がっきは，よくわすれものをしていたので，２がっきは気をつけたいです。

（２年　M.・Y）

繰り返し発表の練習をしたので，言葉を全て覚えて，堂々と発表することができました。

ぼくは，夏休みに初めて水泳記録会に出ました。きんちょうしたけれど，よい結果が出てよかったです。水泳を通して，努力することの大切さを学びました。楽しい思い出もできた，とてもよい夏休みでした。

ぼくが，２学期がんばりたいことは，２つあります。

１つ目は，音楽祭です。中だいこなので，みんなとリズムを合わせてがんばりたいです。

２つ目は，学芸会です。自分がなった役をがんばりたいです。２つとも大きなぶたいでお家の人に見てもらうので，ぜひ，せいこうさせたいです。

勉強では，算数のむずかしい問題や体育のさか上がりなど，苦手なことにもちょうせんしたいです。

あきらめずにどりょくすれば，よい結果につながります。最後まで，がんばっていきたいです。

（３年　M・S）

緊張しすぎて，もやもやしていた８月８日の朝。この日ぼくは，東部地区の水泳記録会に出ました。

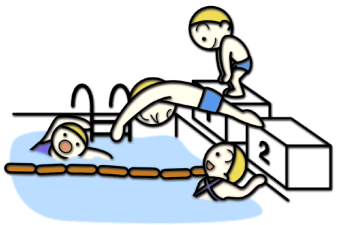
たくさんの人。大きなプール。

自分の記録に自信がないぼくは，朝ご飯も食べられず，知っている人に会っても挨拶することができないくらい緊張していました。

しかし，心の中で「大丈夫」と言い聞かせました。

そして，ぼくの番。プールに入ると，不思議と緊張がほぐれてきました。

記録は，自己ベスト。



ぼくは今まで，失敗したらいやだなと思って，自分から何かに挑戦することを逃げてしまうことがありました。しかし，記録会の経験を経て，これからはもっと自分を信じてみようと思いました。

２学期はたくさんの行事がありますが，自ら進んでいろいろなことに挑戦したり，努力したりしていこうと思います。後悔しないように，自分を信じて全力でがんばります。

（６年　N・S）

大人でも，緊張しない人はいません。失敗しない人もいません。

私が感心したのは，Ｎさんが自分の弱かった面まで作文に書き，みんなの前で発表したことです。

自分を見つめることができる人は、どんどん伸びる人です。

とにかく　具体的に　動いてごらん

具体的に動けば　具体的な　答がでるから

たくさんの賞状が届きました。がんばってよかったですね。賞状が届いていないので表彰はできませんでしたが，山陽新聞社主催県児童生徒書道展で４年生のＫ・Ｎさんが**「特選」**に選ばれています。

岡山県硬筆展　**「金賞」**

船穂・真備地区水泳記録会　リレー３位！

東部地区水泳　**柳小記録更新！**

始業式での話

友だちに　やさしい子

こつこつと　努力できる子

４月から，みなさんに伝えていることです。１学期の終業式では，行事に向けて「こつこつと努力したこと」や学校生活での「やさしい言葉かけや行動」を，写真で振り返りましたね。

「こつこつと　努力できる子」　６月・７月と，３年生以上の全員が水泳の特別練習に入り，練習をしました。校内記録会ではほとんどの人が，自分の記録を伸ばすことができました。学童や東部の大会があり，記録を出した人がいますが，たとえ出場できなくても「こつこつと努力したこと」は，大会に出た人と同じようにすばらしいことです。賞状をもらった人と同じように，自分に拍手をおくってください。

「友だちに　やさしい子」　夏休みにこんな光景を見ました。ある大会での出来事です。始まる前。駐車場に，大会に出る子ども達を乗せた，７・８人乗りのファミリーカーがどんどん入ってきます。今の新しい車のドアは，電動で開け閉めできますね。

少し古いファミリーカーが近くの坂道で止まりました。最初に高学年くらいの子どもが，自分で後ろのドアを開けて降りました。その車のドアは電動ではないので自分で開け閉めをしないといけないです。おまけに坂道なので，手を離すと，坂道の傾きで自然にドアが閉まるのです。それに気がついた子は，ドアが閉まらないようにずっと持っています。最後の子どもが降りるまで支えていました。自分が降りたから終わりではなくて，全員が降りるまで，閉まらないようにと思い支えていたのです。

さらに，もう一つ，いい光景。２番目に降りた子・３番目に降りた子・・・全員の子が，支えていた子に「ありがとう」というお礼が言えていたことです。

何気ない行動。でも，きっとその子たちは，「友だちのことを思う」気持ち，「ありがとう」という感謝を言う習慣が，日頃から自然にできていたのだと思います。

「大丈夫？」「がんばって」「何でも言ってね」「ありがとう」というやさしい言葉かけや，友達のことを思ったやさしい行動。日常の小さな言動が，お互いの心をつないでいきます。